磐城新聞

休刊 大祭第一第三日曜
定價 壹ケ月壹拾二錢 郵税十錢
廣告料二行五十錢 非定廿錢
發行兼編輯印刷人 蓮沼 （輔）
發行所 磐城新聞社

歳晩に差迫り 資金移動平調
金融市場に活氣を呈す 石城地方の昨今

昨春の金融恐慌以後所謂産業的資金の移動偏成に傾き大銀行の預金と共に郵貯の激増となつた上に資金ノ證券化も夥しく信託預金も亦著しい増加を示した一方に二流以下多數銀行の預金は概して減少を示し更、今期に入つて大銀行の預金は前期に比し更に幾分増加を示し郵貯及び信託預金も亦相當の増加を來したのである

歳晩に近づくと共に資金移動の趨勢は著しく變化し逐月増加の一途を辿りつゝあつた郵貯は前月に比し幾分減少、信託會社中には金錢信託の増加に苦しみ、増加抑制を爲さんとする傾向を帶來れるものある一方

大銀行に於ても預金の受入れに當つて、取捨選擇を嚴重にすると共に貸出方面にも考慮を拂ひ、銀行間に於ける預金爭奪戰は殆どその跡の信託會社の定期預金奪取も積極的には行はれなくなつた。資金偏成の傾向を相當緩和し金融市場に幾分活氣の曙光を齎すものとみられてゐる

鐵橋改修
地主連大喜び

石城郡神谷村大字中神谷地内の省線鐵橋は幅員狹隘のため水出の場合同線路の堤防に堰止められ濁流を呑吐する事が出來ず上流一帶耕地は何時も水害を蒙るので同方面地主連は數年來右鐵橋延長方を仙臺鐵道局に陳情して努めたがこの程漸く延長工事を開始したから今後は從來の如き水害もなくなると見られ各地主連は大喜びである

平町の物價
暮れ標準相場

平町役場の調査した市内物價左の如し
▽白米（地米一等一キロ二十三錢五厘（糯同二十九錢）外米同二十錢）△大麥（搗麥同六錢（消價格）

麥同二十錢）▽大豆一升二十二錢△馬鈴薯一貫匁二十八錢▽番茶一斤六十錢味噌一貫匁八十錢▽醤油一升五十錢▽精糖二十五錢▽清酒一升一圓キリン、エビスビール一本四十五錢、鰹節一匁一圓△椎茸同三圓、和干同二十錢△うどん一把一錢匁九十五錢▽豆腐一丁十錢△牛肉上百匁一圓豚七十錢鷄肉一圓▽鷄卵一個六錢△牛乳一合七錢△絹絲一貫匁四圓七十錢△綿絲一反六十錢▽ゴム底足袋一足一圓二十錢▽薪一把三十九錢、新木同二十九錢▽木炭一貫匁二十錢、新木一十七錢△石油一升三十二錢△雲木綿一枚一圓四十錢△改良半紙一帖六錢▽石鹸印マッチ一包六錢▽番傘花王印一個十五錢▽番傘一本一圓（ことはりの無いものはすべて中ものゝ）

文藝
働く事が専一
炭山 男

働いても食へぬ、金はたまらぬといつてこぼすのは、所謂勞働者の言ひ草だ、所謂洋服細民の常套語だ。一歩追いて考へて見る、働くとは何が意味するかをよく考へて見ると結局金を得る手段を講ずることに歸する。これを奇矯するとは……

の筋途を違へてゐるやうに思はれる。これを上から見ると、蟻の生活にも劣つたろすゞ蟻の生活である、蟻の生活は糧食を運ぶことのみが目的で、蟻は運搬、蟻塔の築造、糧食の運搬の全部が蟻の生活の目的である。衣食住のみが我等の生活の全部ではない、從つて働くといふことは衣食の料を得るためのみ、働くことは出來ぬ。

に我等の生命を生かすことのみのために働くとある、靈を清め肉體を強ふることは過りであるのみ。智を研き、情を濃やかに働いてゐる／＼喰へぬか、純化することの全部が働きであるといふことである。これ身のみならす、出て來るのである。貧苦に惱む人が出て來る。病難も、親も、兄弟も、友も、周圍の人々をもひいて、ほんとうに働いて居る者は病難も、貧苦も、不滿もない筈である。己一身に於て働かすといふことで意味のみならず己の家族の上に己の上に、友人の上に周圍の人々の上に……金も大切である。しかし金だけは出來ぬ。

人命救助表彰
賞詞に金一封を添へ 平署で傳達式

平署では人命救助により豫て當局より表彰されて居た左記八名に對し十七日賞詞及び金一封を傳達した
△小名濱町佐川富次郎、小松秀吉、小野晋平、根本福太郎、以上四名賞詞
本年八月十二日西白河郡金山村橋本基一（二十九歳）が小名濱海水浴場にて溺死せんとしたるを救助す
△豐間村永山喜代治、白土佳外以上兩名金一圓
八月三十日同村海岸にて同村佐藤憲（十三）が水泳中溺死せんとしたるを救助す
△永戸村合津秀三、十一月八日鮫川氾濫し同村遂出ヨク（三六）一家四名濁流に押し流さるゝを危險をおかして救助
△江名村中ノ作吉田正三
九月十五日同村菅野盛光が同村海岸にて水泳中心臓麻痺にて溺死せんとしたるを救助したため

磐城七濱の 鰹漁獲高
七十五萬圓

磐城七濱本年度の鰹漁は近年稀な豐漁で各濱は何年振りにも見ない程非常な賑ひを呈したが縣水産試驗場の調査によると七濱の鰹漁獲高は七十五萬八千七百三十二圓で其中江名町の三十萬三千百六十一圓が最高を占め次が中之作の二十萬七千三百九十三圓四倉町の十九萬九千百四圓等で久の濱町の一萬二百三十四圓請戸の千二百圓等が最低である尚ほ漁獲高の最も多い漁船は江名町の萬勢丸二萬八千六百百五十一圓豐德丸二萬四千七百二十二圓其他である

素人の無智に乘じ 桝目を胡魔化す
湯本から不正商人檢擧 平署の特別執行

歳末の特別警戒に努めてゐる平署では米穀、酒、醤油其の他量目品商人が歳末のドサクサにまぎれ殊に一月からメートル法が未だ一般に完全に普及してゐないのを幸に量目を誤魔化す者が多いので管内量目品商店に對し特別執行をする事となつた結果昨十八日湯本町字三函米穀商某妻某、同町天王崎比佐金太、同立花治三名が何れも從來の桝目を使用して量目を誤魔化してゐた事が發覺槍玉に上げられた

農産品評會
勿來で褒賞授與

勿來町農會主催農産物品評會は昨十八日午前九時から同町小學校に於いて開催したが出品約二百五十點郡農會大山技師審査の結果入賞八十名に對し今十九日午後一時から同小學校に於いて褒賞の授與式を擧行した

農民養成講習會
實地指導で講習 受講生は二十名

石城郡農會主催の郡下中堅農民養成講習會の第四回現地講習は今十九日午前九時から平町に於いて開催したが講習生廿名は郡農會鈴木技手の指導により松崎養鷄場、平農牧場、平區裁判所、平町農會、商業學校、會社銀行其の他の現地見學をなす事となつた

井上氏放送
他臺から消防講演

全日本消防協會理事平消防組頭井上茂作氏は來る一月十（月次未定）仙臺放送局に於いて消防講話の放送をなす事となつた

淡輪氏榮轉
磐崎村

藤原三井鑛業所淡輪所長は今回北海道砂川炭礦所長に榮轉した

※明日 吉凶※
舊十一月九日 新十二月二十日

▲一白 投機心を去り堅實に働く時は大吉日と成る▲二黒 不遇の日なれど手堅くすれば進路開け來る▲三 慣れぬ事に誘はれて失敗の臍を噛む不安日▲四緑 空穎みせず自ら勵まし自らを稼ぐに若くはなし▲五黄 守れば失なし勝たんとすれば却つて負となる▲六白 氣を焦つくときは極端の變化を生じて悔あり▲七赤 懸崖の絶頂に躍るが如き危險の伴ひ易き日▲八白 意見の通らぬ日屈するは伸びるの基ひと知れ▲九紫 張台よく樂の進み行く日但し飲食注意

講談 幕末秘帖 狂懸亂心 （118）
渡邊默禪作 宮野歌春畫

「いかにも承知致しました」と勘兵衛はつばを呑んで

首を下げながら
「たとへ此の藤屋の身代を殘らず差上げませうとも、大事な倅の命には換へられませぬから、早速御返金いたすべき苦ではござりますが一萬と申せばちよいとした金、それを取纏めまするに就ては内輪の都合もあることとなり、又た倅が如樣なことを申し募るのは何か此場で言ひ難い秘密事がござつての事であらうと存じますでそれを問糾して見たし兎に角此の御挨拶は最う二三日のところ、御待ち下さるやうに、ハイ、勘兵衛お願ひをいたしまする」
と手を支いた
「いかさまの」鐵齊は打けた體で
「宜しい、然らば今日からいたして、三日間の猶豫を遣さう」
「有難い儀に存じまする」左樣にいたしますと此の御挨拶はいづれへ申し出ませうか、恐れながら御旅宿を」
「むゝ、旅宿か、出府中はそれがしが親戚に當る幕府の大目附駿河臺の瀧川播磨守方に逗留いたして居るぢやで、その屋敷へ參るがよい」
「えツ、瀧川さまの……へツ、へツ、畏まりましてございまする」
それを聞いて勘兵衛は一人に縮み上つた、瀧川は大目附でも筆頭のバリ／＼役で將軍家の供奉として京都にゐるが、その威勢は空驅る飛行機も睨み落すくらゐ、此の悶着を襖の蔭で聞いてゐたのがお萬であつた何か滑稽なのか憤出す程の可笑しさを口に蹴す袂に抑へて片手に腹を抱へてゐた
「コレ／＼お萬やお歸りだぞッ」と良人が呼ぶのでひよいと立揚つて
「ハイ」と答へた
それが怎にも力の拔けた聲音のやうに勘兵衛の耳に響いたのである。
※ ※ ※
梅が飛込んだ時は力士方の大惡戰に陷つた時であつた、斬られて即死した者五六人、重傷を負つたのが十餘名もある。でもきたなく逃げ出しては關取の名折と是非なく踏止まつて奮闘を續けてゐた所へ、仲裁者が這入つたので、それを潮會に手を引いた。又た浪士組も騎虎の勢ひから及に血は塗つたものゝ眼に餘る多數の敵、かに死物狂ひ、戰つても容易に剔毛がつきさうもないので次第に精がへる力はなくるやゝ倦みかゝつた矢先であつたから味方の梅が如才のない止振に内々嬉しく思ひながらも表面だけは據所なささうに粧つてその儘刀を鞘に納めた
同夜梅は近藤勇と共に八軒家の京屋に居殘つてゐたのであるが、京都の御掛役板倉周防守から早飛脚が來て急用出來に付き早々引揚ぐるやうにとの命令が傳へた明朝出立歸洛と決したけれども肝心の芹澤が居ない今になつても歸宿せぬ所を見ると多分馴染の住吉へ浮れ込んだのであらうと推測してそれを通知かた／＼捜索の爲に梅が出向いたのである。その途中で花街の騒動を聞き力の上の相手が新選組だといふのに驚いてまつしぐらに驅附けたものであつた

内科、小兒科
花柳病科 入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町 電話番號二五〇七番

夜間診療
胃腸 十二指腸虫病 内科 專門 内科部
梅毒 淋病 婦人病 皮膚病 專門 外科部
平南町 [illegible]村病院 電話七〇一

三益玉炭のお奬め
三井物産會社ガ多年ノ研究ノ結果專賣特許ヲ得タ最モ文化的ノ木炭代用ノ高級燃料デス
□無煙無臭デ、火付ガ早ク火持チ良ク、火力ガ強ク日常ノにやきニハコンナ便利ナ品ハアリマセン
□ソレデ値段ハ大變お安ク木炭ノ三分ノ一デ充分間ニ合ヒマス
□ドンナニ喰はずきらいノ人でも一度使ヘバ必ズ御氣ニ召スノガ此ノ玉炭ノ特長デス
値段ハ壹箱金貳圓 個數ハ約八百個内外
御申越次第見本ヲ持參シテ御覽ニ供シマスカラ御申越下サイ
平驛前 阿部石炭商店 電話二三七番

吉田眼科醫院

開業廣告
内科、小兒科、外科、皮梅科
其他一般（入院隨時）
植田町本町（電話一二四番）
院長 新潟醫專卒 前田清美
前田醫院

營業種目
内地材 材木各種、羽柄材各種 建築諸材請負 礦山用坑木其他諸材請負
外材部 米松、米杉、大角製材調達 請負 其他
㊀ 佐藤材木店
常磐線平町新川町 電話三三五番

外科一般（入院隨意）
内臓外科專門
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

鳥の水たきを初めました
お美味しくて勉强第一 皆様のお越しをお待ち申ます
平町新田町川岸
鳥料理 初音
電話二二三六

埋立も三分通り
片倉製絲進捗
總會は一月に延期し 明春迄には竣工

今地方民が全力を擧げて熱望してゐた片倉磐城製絲一大こう場も愈々明春を以つて操業開始と決定不景氣に祟られ續けながらも募株も頗る順調に終了を告げ此れが創立總會は來る二十五日平町に開催する事となつた旨既報したが其の後片倉本社の事業計畫上と歳末に入つて各方面共に多忙な折柄とを考慮し明春一月十二日に延期して創立總會を開催する事になつた此れに就いて關係者は

「總會を延期した事に就いて或る一部の人々は會社の前途に何等かの支障が出來た如く觀てゐる樣ですがそんな事は絶對になく又銀行の休業や百七の休業等に幾分か厄されたことは事實ですが此れも會社の成立には何等の影響もありません、こう場の建設こう事の如き本月初旬土盛こう事に着手以來着々進捗して今日では三分通りまで埋立を終りました總會前後までには土盛こう事を終了してこう場の建設こう事に着手する筈で材料の如きも大體決定して居ります」云々

磐東銀行が更らに
出張所認可さる
上遠野、泉の二ケ所に 業務の一大擴張

本郡南唯一の金融機關である植田町磐東銀行は頭取江尻博孝氏と專務取締役金成通氏外各重役の個人的信用と堅實なる營業方針により益々信用を博し這般來地方金融界未曾有の動亂に直面し些さかの打撃を蒙らぬ許りか益々業務の隆昌を示しつゝあるが更らに去る十八日附を以て上遠野、泉の兩出張所開設を大藏大臣より認可され此の濟界に逆行し益々積極的に營業の擴張發展を見る事となつた、即ち從來出張所の設置は支店設置の場合と異り各銀行が任意に設置廢止をなし得たが先年來實施された銀行條例の改正と共に出張所も支店同樣主務大臣の認可を要することゝなつたので同行では三年前より營業を執り來たつた右上遠野、泉の兩出張所の設置認可申請を提出するや主務省では縣當局に命じて資産、信用その他の資格を詮議中の處今回認可された極めて少數の内に而も同行が二出張所の設置を認可された事は以て如何に同行の基礎が確實であり信用の厚きかを窺知するに足るものがあり益々地方民の信頼を厚ふしてゐると

貧困者に
もち米惠與
植田署で斡施

植田署管内人事相談所では後藤署長先頭に立つて先頃來基本金増成に各町村毎に消防組と協力奔走中であつたが各組共大半は豫定額超過の好成績で近日全部完納を見る運びとなつたので目下歳末にある極貧者に糯米を惠與する事となり各駐在所及役場を經て貧困者の調査を開始した

主人を欺いて一千圓
佐渡ヶ島で着腹
子飼ひの番頭の惡事 平署で犯人嚴探

平町字仲町古物商山田文一商店、々員富山縣射水郡黑川村生れ山崎要作(三五)は去月九日新潟縣佐渡郡の村上電氣會社に於いて發電機其の他の拂下品競賣入札あるる爲め主人から現金二百餘圓を預り買受けに出かけたが其の後約十日を經た同月廿一日に至り佐渡河原郵便局發信で全部落札したから金一千圓を送れ」と主家に急電があつたので主人山田文一は直ちに電報爲替を以つて金一千圓を送金したが其の後五日たつても一週間たつても何等の音沙汰がないので不審に思ひ前記村上電氣會社に照會した處拂下げなぞをした覺えはないとの事に始めて山崎の爲めに詐取された事判明驚いて平署に届出たので平署では直ちに各地警察署に手配犯人要作の行方嚴探中であるが要作は幼い頃から同家に雇はれ頗る眞面な男であるかく主家でも信用し切つたものでまさかあの男がやらうとは思はなかつた」と語つてゐたが平署では要作の年から推して陰に何者かのあともあると睨み犯人要作を嚴探中である

十ケ年繼續で
貧民に糯米
楢田氏の篤志

青森下關間の單騎々乘で一躍全國的に名を知られた本郡入遠野村楢田彥之進氏は其の後郷里にゐつて晴耕雨讀の境地にあるが歳末に入つて平署の人事相談所が例年通り貧民に餅米代を惠贈すべく目下貧民の調査中とある機を知つた同氏は相談所の事業を援け、爲め白米一俵の寄附を申出たが更らに御大典の記念の業として今後十ケ年間毎年歳末を期して白米一俵宛の寄附を爲すべく此の程平署に採納方を願出た

平町役場で
年末賞與
敎員に四千圓

平町役場では商業學校以下第一第二兩小學校敎員八十七名に對し年末賞與を給與することゝなり協議中であつたがこの程決定したので縣に對し答申したが最高額二百十圓を筆頭として四千圓であると

門松の注文取りや
賃餅屋の杵の音
相場は一升十錢見當
平町の正月仕度

た正月もとう〳〵あと二週間ともたゝぬうちにやつて來る、御大典景氣を暮まお越さうと腕にヨリをかけて待ち構へてゐた町の商人達は銀行の休業に何かしら鼻をくぢかれた體でまるでかさすが暮間近だけに店飾りや、歳暮大賣出し等賑ざわめいて來たさてお正月所から、ぞしたそのお正月仕度の値段を調べて見ると先づ門松だが例年の通り安い所は二圓から三圓、五圓十圓と云ふ所が一番多く用ひられるだらう、それから

餅米だが昨年より幾分安く一升につき關東米が卅七、八錢、糯餅に於ては白が四十四錢、赤が四十三錢、三日が四十二錢である、餅搗賃については近く平署で市内の賃餅屋を集め協定する筈であるが本年も一升十錢位の見當である、市內の賃餅屋は約二十軒位だが早くもお得意を廻して米屋に得意さんを自分の方へ引寄せ樣と互に運動してゐる

暮れの市
紀州蜜柑の天下
安いものは賣れぬ 平町の市場覗き

暮の贈答品やお正月にはなくてはならぬミカン、それは黃金の山…といふと大げさだが平町の果物店に昨今いろ〳〵現れて來た

◇ところが今年は産地一帶が大のは昨今來てゐるのは靜岡物、相州物それに伊豫物は少々ばかり、昨年は走り相場が既に安く紀州本場物すら一箱一圓一、二十錢で買へたのだが今年の相場は靜岡物で一圓から一圓四五十錢、伊豫物が大箱が五圓四、五十錢、相州物が三圓八十錢といふ處二個小賣は二錢五厘から三錢につくのである

◇紀州物はまだ顏を見せぬけれどこの高價では一寸商人も手が出し難いといふ話、兎角ミカンは近年にないバカ相場でたまけに不景氣に來てゐるのだから賣足のにぶい停車場あたりの扱ひに見ても今の處昨年の三分の一の着荷がないさうである

△この外お正月用品としては鹽サケが一尾一圓四、五十錢からあらまきの上等で二圓八、九十錢で昨年から見ると上品は三割方高く干物類ではカツオ節が五圓から極上十圓二十錢これも去年からは一割方騰貴、シヒタケ百匁三圓三十錢位、干ぺうが五十錢で共にやゝ下り一割半高相場である

◇安いのは砂糖位なもので、これは昨年百六十匁二十九錢もした精糖が二十四錢となり白二十一錢玉糖十六錢で小賣されてゐる

旅館の女中を伴れて
詐欺專門の惡番頭
先づ植田から足がつき 極力行衞を捜査

町白銀町平驛前旅人宿八幡屋方番頭大津又吉(三五)はかねて情を通じてゐた平町字田町旅人宿福住屋方、女中馬上ナカ(三八)と去る十日夜驛前の旅人宿松崎屋方へ夫婦氣取りで泊り込んだ事を密行中の平署狩刑事の爲めに擧動不審で檢擧され旨既報し、が何等か犯罪のありと睨んだ平署で嚴重な取調に對しても口を噤んで語らず大へん氣なくも泣き出す始末に係官も手古摺り一先放還したが其の後又吉は情婦ナカを連れ出し植田町に至り同町鍛冶職峯口佐吉(三九)を言葉巧みに欺いて現金五圓を詐取した外各所で詐欺を働らき行方を晦ましたで平署では植田署と協力目下又吉の行方を嚴重搜査中であるが又吉は單なる詐欺漢ではなく某重大事件に關係あるものゝ如くである

平火葬場
十五日から開始

平町營火葬場の建設工事は追般竣工したので去る十五日より業務を開始したが火葬料は甲種十二才以上五圓、乙種三圓、丙種二圓である

研究講座
子供の職業の選び方
青沼學人

小學校の卒業期も近づいて家庭の事情から、學校へやれぬ人達は、そろ〳〵その子の卒業後の職業について頭を惱ましてゐることゝ思ひますこの樣に年若いのに職につかねばならないと云ふのはいかにも可哀さうではありますがそこには種々の社會的事情が潜んでゐて今の世の中では是非もない事でせう、ですから其樣な事情に置かれた以上は親達も自分の目先ばかりを考へず、その子の將來のことをよく考へて子供に適する職業を選んで安心して働けるやうにしてやり度いものです、子供はまだ子供自身も自分の身體上の疾患に就いてよく學校醫か其他の醫者に檢べて貰ひその上得意とするところ、好むところを考へ家中の人や先生達と相談してその進む道を走めるべきです、東京府の少年職業相談所ではさういふ就職期を前に少年の疾患と不適當の仕事に就いて調査をつゞけてゐましたが、漸くこのほどその調べがついたので今後はこれに依つて指導するさうですが、それによると

◇近視のものは時計工、複寫眞工、交通從業員、食堂給仕、理髮師、刺繡女工、精密機械工など不適當です

◇色盲のものはレンズ工、ガラス工、ガラス器具工、金銀細工、工象嵌細工師、染色工、皮師、敷物製造業、印刷工、着色石版職工、園丁、理髮師、海員、寫眞師、畫工、美容師、裁縫師、美術工藝女工、幼稚園保姆など不適當

◇耳の惡い者は樂器工、鍛冶工、錠前職、時計工、屋根職、左官、賣子、勞力作業從事者、電話交換手、速記は不適當

◇發音障碍の者は敎師、商人、食堂給仕、活動說明者、電話交換手等不適當

◇鼻の惡い者は化粧品商、藥劑師、料理人は不適當

◇肺病の氣のある者は鑛工、鑄型工、鑄造工、轆轤工、電氣工、器具工、機械工、その他筋肉を甚だしく使ふ仕事、塵埃多い作業、酸、瓦斯、蒸氣等を高溫又は低溫下に扱ふ作業、食物、嗜好品を製造する仕事、又は他人の身體に觸れて世話をする樣な樣々の仕事には不適當

◇心臟病の者は園丁、鑛工、鑄型工、鑄造工、金屬印刷工、釜鍛冶、皮揉工、桶職、大工、石磨工、料理人、動力車掌、飛行家は不適當

◇皮膚病の者は電池工、鍍金工、旋盤工、染工、化學工、印刷工、塗工、釀造工、家具工、鑄金工、染色工、ブラシ工、左官、ペンキ職、煙突掃除夫、石磨、パン燒工、彫刻師、寫眞師、藥劑師、理髮師、店員賣子、料理人は不適當

◇[illegible]者は鐵砲工、金細工職、器具こう、機械こう、レンズこう、旋盤こう、時計こう、電機こう、鍍金こうは不適當

◇脚の惡い者は機械こうその他直立を要する作業や又は長い距離を歩む樣な職業とか、齒科技こう、植字こう、農業はよろしくないのです

◇癲癇のものは、階段を昇降する仕事や、重きもの又は鋭尖なもの、酸、火等を取扱ふ職業、機械の使用部分金屬機械こうには適さないとされてゐます

盜み貯めた贓品
自動車に一台
郡南と茨城を荒して 金吾遂に捕縛

植田署、蛭田刑事が十五日深更同町東町地内を密行中、印袢天を着多少酒氣を帶び徘徊してゐる男を保護を加へんと同行を求めると矢庭に逃走を企てたので追跡格鬪の上取押へ取調中であるがこ奴は茨城縣那珂郡檜澤村大字雨木田木挽職前科犯萩庭金吾(三七)で昨年九月以來同郡山田入遠野上遠野で植田を始め列車内及久慈町等に於いて連日常習的に竊盜を稼ぎ贓品を久慈町方面に入質或は抵當して借金し全部を酒色に消費してゐた事を自白したので蛭田刑事は直に久慈町に出張該贓品を植田署に運び戻したが反物、衣類、オーバー、足袋、手袋、糸類、草履、靴、鐵瓶、便箋、ハミガキ、傘等實に四百五十餘點價格四百餘圓に達し植田驛より同署に自動車で運搬した有樣で同署は目下贓品の山積狀態である引續き餘罪取調中であるが芋蔓をたぐる如く枚擧に遑なき犯行が自白され取調に手を燒いてゐる仕末である

本年掉尾の
平町會
廿日に開會

本年掉尾の平町々會は來る二十四日頃同町役場に於て開催されるが同日の町會に於て平町現各區長の改選を行ふ筈であるこれがため各野心家は雨後の筍の樣に現れ各町會議員を歷訪し後任區長たらんと盛んに暗中飛躍を始めたが、この區長改選は延いて明春行ふ平町會議員選擧に大なる關係があるので各町議に於ても自己の地盤に有利な者を選定せんと暗中飛躍を試みてゐる

川崎家不幸
嚴父金作翁長逝

同業常磐毎日新聞社長川崎文治氏嚴父川崎金作翁は病氣自宅で治療中の處十九日午前九時五分遂ひに永眠した、享年八十一歳葬儀は明二十一日午後二時長橋町自宅出棺性源寺に於て執行の筈である

かみくづ

◆同處の花柳界でも地出來の藝者の多い處は發展してると云ふのは新田町でも石城出身藝妓で後援會を組織して大いに生産奬勵をやらうといふ運動が起つてる、玉子でも地玉子は高いそうだ◆藝妓の自給自足、花柳界地方自治といふモットー目的は石城出身の藝者を集めて他地方の藝者を排斥しようといふんだから支那の日貨排斥のようなことが平にも起ろうといふものだ◆そうなればた客にもヒイキ〳〵があるから双方シノギを削つて戰ふ事になるだらう、誰だへ家のた父さんは割箸を削つて暮してるなんていつてるのは、外聞が惡いから止せよ。

◆第三回謝恩大興行◆

二十日より替り

日活會社連續映畫
原作…村上浪六　監督…辻吉郎
元祿 妙法院勘八 後篇
河部五郎、尾上多見太郎
櫻木梅子、嵐 玨松郎

血涙悲壯明治建國史
日活オールスターキャスト
尊王攘夷 二十卷
總指揮…池永浩久　原作監督…池田富保
山本嘉一、大河內傳次郎
尾上多見太郎、酒井米子
「黑船だ」神奈川 住民は米國艦隊に膽を冷やした、米艦より威嚇の空砲 發

土日曜學生デー
普通席 金十錢
平館 (電四六六)

電話開通
六三八 高橋龜松
平町白銀町

X光線科
外科專門
入院隨意(自炊の便あり)
平町南町
上田外科醫院
電話一二九

釀造元
清世界
銘酒
各炭鑛御用達
石城小名濱町
吉 清水屋
小野晋平
電話六番

本社長川崎文治氏嚴父川崎金作氏逝去候爲め十九、廿日ノ兩日休刊仕候間此段御諒承願上候
昭和三年十二月十九
常磐毎日新聞社

父金作儀永らく病氣中の處藥石効なく本日午前九時九分死去仕候間此段御通知申上候
追て葬送の儀は明廿日午後二時自宅出棺性源寺に於て佛式を以て葬儀執行可仕候
昭和參年拾貳月十九
男 川崎文治
外 親戚一同